

博物館休館日カレンダー 2025年 8月							
日	月	火	水	木	金	土	
27	28	29	30	31	1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31	1	2	3	4	5	6	

休館日 ※情報はR7.7.18現在

博物館だより

No.225



令和7年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

①夏の企画展

福田安次氏と「平和の木」たち展

平成9年に犀川小学校に植えられ、大きく育った被爆エノキ二世は、広島で原爆の語り部として長年活動された故福田安次さんから贈られたものです。

福田さんの没後10年、そして戦後80年を迎える今年、この木に込められた福田さんの思いと、子どもたちとの交流の歴史を振り返り、改めて平和について考える機会を提供します。

■開催期間

令和7年7月17日(木)～
8月17日(日)

※祝日を除く月曜日と、
祝日の翌日は休館です。

■場所

みやこ町歴史民俗博物館

■観覧料

入場無料

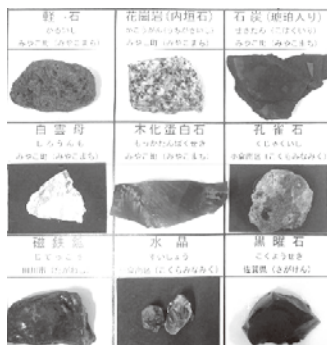


▶犀川小の被爆エノキ二世

②夏休み子ども体験教室

オリジナル宝箱づくり 鉱物標本を作ろう！

みやこ町在住・在学の小学生のみなさん、みやこ町でとれた岩石・鉱物を中心に、石にまつわるお話を聞きながら、オリジナルの標本箱を作ってみませんか。



▲鉱物標本 (イメージ)

■実施日時

令和7年8月24日(日)
13時30分～15時
(13時～受付開始)

■場所

みやこ町歴史民俗博物館

■参加対象者

みやこ町在住・在学の小学生
(1～3年生は保護者同伴)

■参加費 200円

■募集期間

令和7年8月1日(金)9時～
定員(20人)に達するまで

■申し込み方法

博物館窓口または電話で
(0930-33-4666)

◆講座・教室・催し物ガイド

8月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

8月2日(土) 9時30分～

【古文書講座】

8月9日(土) 10時～

【古典かな講座】

8月16日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】

8月24日(日) 13時30分～

みやこ学は「夏休み子ども体験教室」鉱物標本を作ろう！と併せて実施します。
※日程等変更となる場合があります。

博物館で楽しく学びませんか？

みやこ町は、重要な史跡が分布し、また様々な分野で功績を残した人物を輩出した町です。このような町の歴史を楽しく学んでみませんか？

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク、講演会など各種イベントを通じて歴史を学びます。

★みやこ町文化遺産ボランティア

発足30年の歴史ある会です。町内文化財のガイドや研修などの活動に参加いただける方を募集しています。

*2つの会の活動については下記参照

6月の業務日誌から

6月20日(金)、福岡県建築士事務所協会から13名の皆さんが見学に来られ、みやこ町文化遺産ボランティアが国分寺三重塔をご案内しました。

6月22日(日)、博物館友の会恒例の研修会が実施され、会員37名が「宇佐神宮御遷座1300年」で賑わう宇佐市周辺の史跡を巡ってきました。



みやこの歴史発見伝 179

80年前、犀川に 造られた飛行場

太平洋戦争終結80周年

有事に備えて自衛隊などが平時から使用可能な「特定利用空港・港湾」に指定されている北九州空港（荊田町・北九州市）で6月27日、この空港から約16km南に位置する航空自衛隊築城基地所属の戦闘機が連続離着陸訓練を実施しました。有事のほか災害時の情報収集活動を目的としたもので、北九州空港が戦闘機の訓練で使用されるのは平成18年（2006）の開港以来初めてとなります。固定翼航空機の離着陸には長大な滑走路が欠かせないことから有事には、航空戦力の離着陸を阻止するため滑走路は真っ先に攻撃される目標のひとつです。ヨーロッパではこのような事態に備え、直線的に造られた高速道路を「補助飛行場」として使用するための訓練が行われています。

今日15日で太平洋戦争終結から80年を迎えますが、今回は、戦争末期に米軍の空襲に備えた「補助飛行場」がみやこ町犀川に造られたことについてご説明します。

兵器となった「飛行機」

第一次世界大戦から航空機が「兵器」として用いられますが、空中から敵陣に向けて爆弾を投下する戦術は、戦場の常識を覆すものでした。日本でも航空機パイロットを

養成するため大正4年（1915）に航空大隊が創設され、福岡県でも大正8年（1919）に国内で4番目となる飛行場として「大刀洗飛行場」が建設されました。太平洋戦争開戦の発端となった「真珠湾攻撃」では、旧日本海軍によって世界初となる航空母艦の艦載機による攻撃が実施され、その戦術が世界から注目されました。この出来事は戦艦の巨砲から空母艦載機による攻撃へと戦術が転換するきっかけとなりました。このような動向と前後して、東九州には多くの旧日本海軍飛行場が設けられ、大分県宇佐市には「宇佐海軍航空隊」が創設されました。この航空部隊は太平洋戦争開戦時には、日本で唯一、かつ最大の艦上爆撃機搭乗員及び偵察員の養成を行う航空隊でした。昭和17年（1942）10月には、現在の築上町に、旧日本海軍の「築城飛行場」が建設され、空母艦載機搭乗要員育成部隊として「築城海軍航空隊」が創設されました。この飛行場は、現在、航空自衛隊の築城基地として使用されています。戦争末期には本土決戦に備えた特別攻撃隊の中間基地としての役割も担っていたため、昭和19年（1944）以降、戦闘機などを格納する「掩体壕（えんたいこう）」が構築されますが、その一部は現在、福岡県の文化財に指定されています。

犀川に造られた「滑走路」

太平洋戦争末期、米軍の空襲が激化し国内の主要都市をはじめ、軍事基地や工場などがその標的となりました。空襲による航空戦力の

被害を減らすため、飛行機・燃料・弾薬などを分散させ、空襲によって主要な基地の滑走路が被害を受け、戦闘機などの離発着に支障が生じても、代替の発着基地を確保するために設けられたのが「補助飛行場」です。補助飛行場建設は、昭和20年（1945）4月から着手され、全国約40カ所に設ける計画であったと伝えられています。みやこ町犀川花熊から木山にかけて水田が広がる平坦地の一部に地元の人々から「カッソウロ」とよばれる場所があります。この名称の由来について調べてみると「築城海軍航空基地」関連の資料の中に、80年前の昭和20年（1945）8月、この地域に長さ600m、幅30mを測る滑走路及び飛行機を格納するための複数の掩体壕や滑走路への誘導路を備えた「補助飛行場」が建設されていたことが確認できました。本格的な本土決戦に備え、航空特攻兵力温存と特攻機の離発着を目的として造られたとみられ、飛行場完成後は築城



「赤とんぼ」とよばれた練習機（模型）

基地の機体も分散配備する予定であったとも伝えられています。さらにこの飛行場では、滑走路のほかに着艦訓練塔も建設されていました。空母艦載機は空母の甲板からの離発着に高度な操縦技術を要するため、練習機をワイヤーで吊り、空母甲板へ着艦するための訓練を行っていたものとみられます。また着艦訓練と併せて、パイロットの養成や訓練に使用される93式練習機（その姿から「赤とんぼ」とよばれました）に爆弾を装着して米軍上陸用舟艇を攻撃するための訓練も行われていたとも伝えられています。

この飛行場が造られた昭和20年頃には、零式艦上戦闘機（零戦）など戦闘機の多くが特攻や空襲などで失われ、その消耗を補うために練習機が特攻機に使用されたものと推察されます。本来、操縦の練習を目的に造られたこの練習機は、木や布などの素材でつくられ、速度も遅いため、米軍艦船への攻撃は、かなり無謀なものでした。現在、「犀川補助飛行場」の痕跡は、後世に行われた圃場整備などにより消滅していますが、着陸訓練塔の基礎部分の一部が田畑の中に残されています。

80年目の危機

本年は、長崎への原子爆弾投下から80年を迎えます。80年前の昭和20年（1945）8月9日、長崎へ原爆投下に向かうB-29に対し、築城飛行場から零戦10機を緊急発進させたことが伝えられています。「人類史上初の核攻撃」となった日本への原子爆弾投下をきっかけに、

原爆開発に携わった科学者が社会的責任を認識し、軍拡競争の阻止、平和維持の方法などについて協議する中で核戦争への危機感を視覚的に分かりやすく人々へと伝える必要性を模索しました。その結果考え出されたのが「世界終末時計」です。この時計は人類、世界（地球）の滅亡を「午前0時」として、これに到達するまでの残り時間をアナログ時計の針で象徴的に示したものです。原爆投下から2年後の1947年に設定された時には、針は7分前に設定されましたが、残り時間が最長を示したのがソビエト連邦の崩壊に伴い冷戦が終結した1991年の17分前でした。そして今年（2025）は、残り時間が最短の89秒前を示し、1947年の開始以降、人類滅亡への危機が最高潮に達していることを警告しています。今月は「人類史上初の核攻撃」から80年目となる節目を迎えますが、再び核爆弾が使用される危険性は、この80年間で最も高くなっています。本年6月23日は沖縄戦の終結から80年を迎える「慰霊の日」となりましたが、この前日、アメリカはイランの核開発施設に対して攻撃を行うなど、新たな戦争につながる危機が発生しています。またウクライナへ侵攻したロシアは戦況の長期化に伴い核兵器の使用を示唆しています。犀川出身の中尾廣治氏による核兵器廃絶などの運動について以前ご紹介しましたが、80年の節目の年をきっかけに、改めて戦争と平和について深く考えてみてはいかがでしょうか。（井上信隆）